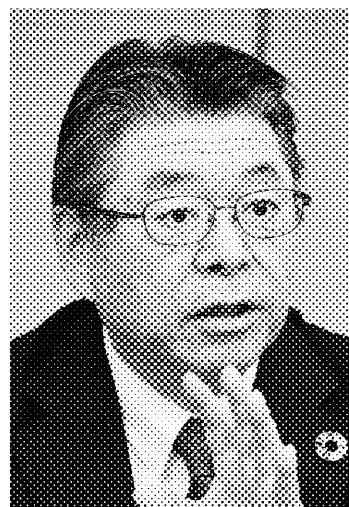


セグメント変更が奏功

荏原は2025年12月期までの中期経営計画で好調なスタートを切った。1年目の23年12月期は増収増益で営業利益、当期利益ともに3期連続で過去最高を更新し、24年12月期も増収増益を見込む。23年にセグメントを対面市場別に変更した効果が出ている。半導体製造向けの精密・電子セグメントを中心に24年12月期の見通しを浅見正男社長に聞いた。

「セグメント変更の狙いと成果は。」「旧風水力を建築・産業、エネルギー、IT、エネルギー、エネルギーの三つに分けた。建築・産業では標準ポンプ、送風機、空調の冷凍機と冷却塔を一緒に提供し、省エネルギーをトータルで請け負えるようになった。1人の営業担当者で

荏原社長 浅見正男氏



「24年12月期の見通しは、増収増益だが、営業利益率は10・5%と0・8%下がる見込みだ。全セグメント共通だが、中計の3年間は

「24年12月期の見通しは、増収増益だが、営業利益率は10・5%と0・8%下がる見込みだ。全セグメント共通だが、中計の3年間は

省エネ、トータルで提案

「24年12月期の見通しは、増収増益だが、営業利益率は10・5%と0・8%下がる見込みだ。全セグメント共通だが、中計の3年間は

半導体需要取り込みか

「24年12月期の見通しは、増収増益だが、営業利益率は10・5%と0・8%下がる見込みだ。全セグメント共通だが、中計の3年間は

記者の目

「24年12月期の見通しは、増収増益だが、営業利益率は10・5%と0・8%下がる見込みだ。全セグメント共通だが、中計の3年間は